

広島大学・広島市立大学・広島工業大学との意見交換

広島大学・広島市立大学・広島工業大学による戦略的G P『医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成』（以下、広大G Pと記す。）で中心的な方々との意見交換を、平成21年12月12日に実施した。当プログラムでは、膨大化した情報を統合的に理解できる実践力が保証された人材を育成するため、医療系、情報系、および、工学系の分野が連携して学士課程と大学院課程教育プログラムを確立することを目的としている。

意見交換では、

1. 他大学に提供している講義の内容
2. 講義の提供方法
3. 将来的な計画

を主たるテーマとした。冒頭、本取組みについての説明を行い、それに続いて上記3項目に関する意見を述べることとなった。

他大学へ提供する講義内容については、基礎知識が不足していると考えられる他分野学生に対して、どのように講義内容を修正するかというのが問題の根本であった。この問題は、広大G Pとの運営形態が大きく異なる本取組みにおいても重要な問題点であり、活発な意見交換が行われた。特に、一連の学問の流れの中で基礎知識と専門知識を教授するには制約があること、実技科目については経験不足のために必要実習時間の予想が立て難いなどが指摘され、今後の取組みの中での解決点として共通認識を持った。また、既存開設科目ではこのような点を解決するのが困難とも考えられるので、科目の新設についても検討中であることなどを議論した。

双方向授業の実施についての問題点としては、遠隔受講地における教育環境の改善について議論が集中し、本取組みでの特別任用教員の役割や効果について説明し、意見交換をした。また、e-learningの運用についても議論が及んだが、本取組みでは、板書を重視した講義など、大学のアドミッションポリシーに則した講義形態を尊重することや、外部への流出が危惧される患者や患部の写真などを講義資料として含むため、不特定多数に公開を前提としたe-learningの使用は見合わせている、との現況説明を行った。また、これについては、従来より情報教育に関する種々の組織でも著作権の問題が扱われており、複数大学で講義情報を共有する困難さについて、再度認識した。

戦略的G Pは3年度の補助が受けられるが、その後の事業継続計画などについて意見交換を行った。本取組みでは、プログラム名称でも社会還元を謳っているように、高大連携・社会連携事業が大きな柱ともなっているため、助成終了後も継続して、他の社会連携事業と同様に各大学が実施できるようなシステム作りをしていることなどを説明した。また、大学院課程についても考慮中であることを説明し、広大G Pにおける大学院課程についての意見交換を行った。

最後に、このような戦略的G Pに係る教員・事務員の負担増について意見が及び、それぞれの戦略的G Pの成功に向けての強い意思確認をして、意見交換を終えた。

意見交換を終えて、医工薬連環、医工薬連携、情報医工学などと医学・工学・薬学の垣根を低くし、人間により良い効果を与えるような学問分野や人材育成への期待が形となって現れてきており、広大G Pや本取組みなどの成功が、新たな人材育成に寄与できることを強く再認識した。

【広大G P開設プログラム、授業科目】

区分	プログラム名	授業科目
学士課程	医歯薬保健学プログラム	医歯薬保健学Ⅰ
		医歯薬保健学Ⅱ
		医療系実習
	医用情報プログラム	コンピュータ基礎
		データ構造とアルゴリズムⅠ
		医用プログラミング
	医用工学プログラム	医用電子工学
		医療機器の原理と構造
		医用工学実験
大学院課程	情報医工学連携プログラム	放射線診断学における四次元画像演習
		放射線腫瘍学における四次元画像演習
		非侵襲脳刺激システム開発演習
		ME 機器学演習・臨床実習
		バイオメカニクス演習・実習
		医薬品製剤設計学実習
		医薬品創製学実習
		看護・介護支援システム演習